

討論

【林慶勳】 竹内先生ありがとうございます。

早速質疑応答に入りたいと思います。

【廖欽彬（台湾国立中山大学日本研究センター研究員）】 ごく簡単に質問させていただきます。

先生は日本の思想、特に無常という考えを通して、危機を希望に転じるとおっしゃっていましたが、いま現在未曾有の危機に直面している日本において、それはいかにして可能か、先生のお考えをうかがいたいと思います。

【竹内整一】 私は、危機をよき転機へと転ずるためには、頭で考えるといった理性とは異なる能力、長田弘ふうに言えば「深く感ずる力」、梅棹忠夫ふうに言えば「英知」というような、理性を超えた、理性以外のものを導入することが不可欠だと考えています。今回の発表ではそのことを、日本人が古来危機に接したときに常に持ってきた、無常感というものをきちんと受け止めなおすことによつて危機が乗り越えられることがあるという智慧をあらためて見なおすべきではないかというかたちで申しあげました。発表では時間の制約がありましたのでお話しできませんでしたが、論文の方ではそのことを、仏教の色即是空・空即是色の展開の仕方に重ねて申しあげています。あらゆる存在は空である、しかし空のままに、いまにここにあることの色の莊嚴が可能であるという理解です。この言葉にはいろいろな理解がありますが、私はそれを日本人のはかなさへの感

受性としての無常感に重ねて受け止めてみたいと考えています。

【林慶勲】 竹内先生ありがとうございます。まだご質問はたくさんあると思いますが、時間の制限がありますので、次の発表に入りたいと思います。

一ノ瀬先生、よろしくお願いいたします。

【一ノ瀬正樹（東京大学教授）】 ただいまご紹介にあずかりました一ノ瀬です。私は東京大学人文社会系研究科の哲学研究室に所属しております。今回、以前からずっと訪問したいと思っていた台湾を初めて訪れることができ、本日こういう場に参加することをたいへん光栄に存じます。

今回の私の発表の主題でもあります東日本大震災に際して、台湾のみなさんからは、たくさん義援金、ご支援をいただきました。私は日本政府の一員というわけではありませんが、一国民・一日本人として、台湾のみなさんのご厚意に心から感謝いたします。

それでは、大震災後の未体験ゾーンというコンセプトのもと、日本における低線量被曝論争の構図について、お話ししたいと思います。